

共用品推進機構だより 2016年05月13日(06)

目次

(24) 共用品推進機構関連記事

- ▽「わたしは共用品 優しい『くぼみ』／星川安之」
- ▽「ブログを更新しました！」

(25) 各種催しとお知らせ

- ▽「『【ほじょ犬の日啓発 シンポジウム 2016】 防災と補助犬 ～障害インクルーシブ防災から学ぶ～』開催のお知らせ」
- ▽「演劇結社ばかりばかり 第十九回公演チャリティ朗読会『朗井(ろうどん)ー赤だれ・黒だれ』開催のお知らせ」

(26) 製品関連記事

- ▽「セラミック刃のピーラー／京セラ」
- ▽「食べこぼしにくいスプーン『UD ソフトスプーン』／レーベン販売」

(27) サービス関連記事

- ▽「スマホで高齢者『食』ケア／アイムービック」

(28) 行政関連記事

- ▽「『ベビーカー利用に関するキャンペーンを実施～よりベビーカーを利用しやすい環境作りに向けて～』」

(29) その他、各種関連記事

- ▽「『私の目』受け入れて 補助犬法の周知足りず」
- ▽「スポーツで障害者理解」

(30) 新刊紹介

- ▽ 『オリンピック・パラリンピック大百科 4 オリンピックの発展と課題』
- ▽ 『オリンピック・パラリンピック大百科 5
オリンピックのヒーロー・ヒロインたち』
- ▽ 『オリンピック・パラリンピック大百科 6
パラリンピックと障がい者スポーツ』
- ▽ 『オリンピック・パラリンピック大百科 7 オリンピック競技完全ガイド』
- ▽ 『東日本大震災と特別支援教育 共生社会にむけた防災教育を』
- ▽ 『共にあることを目指す特別支援教育 関係論から発達障害を問い直す』

(24) 共用品推進機構関連記事

▼ 「わたしは共用品 優しい『くぼみ』／星川安之」

15年程前、ある飲料メーカーが、お茶をペットボトルに入れて販売したいと考えました。お茶は、若者だけでなく多くの高齢者にも飲んでもらえます。そこで担当者は、手の力が弱くなった人でも開けやすくするために、蓋の直径を大きくしたものを試作し、多くの人に試してもらいました。

大きな蓋は好評で、決まりかけた時、手が不自由な人たちに試してもらいました。ペットボトルを渡したところ、それを膝にはさみ、蓋に口を近づけ、歯で開けようと試みましたが、今までは口に入った蓋が、この試作品は大きくなったため、口に入らず自分で開けることができませんでした。

それを目のあたりにした担当者は、蓋を大きくすることをあきらめました。その後検討を重ねたのが、ペットボトルの真ん中あたりをくぼませ、片手でしっかり抑え蓋をあけやすくするという工夫、15年たった今でも続いています。

くぼみと言えば、味噌汁などを飲む器にもそのくぼみがさりげなくついているものがあります。見た目にはどこも変わらないその器ですが、手に持った時、人差し指、中指を迎え入れてくれる「くぼみ」が、何とも優しくついているお椀です。全国の器作家の作品を共同で開発し販売する器店、「花田」の店主が、誰もが安心しておいしく食べてもらいたいと追求した逸品です。

(シルバー産業新聞 5月10日17面より抜粋)

▼ 「ブログを更新しました！」

- ・ベトナム・ハノイ出張
 - ・第3弾 ベトナム・ハノイ旅行記（観光&街歩き編）
 - ・第3弾 ベトナム・ハノイ旅行記（グルメ編）
 - ・バリアフリー／ユニバーサルデザイン入門 / 慶應義塾大学
 - ・タイ日友好議員連盟の方々が機構を訪問
- 共用品ニュース（ブログ） <http://www.kyoyohin-news.org/>

(25) 各種催しとお知らせ

▼ 「『【ほじょ犬の日啓発 シンポジウム 2016】 防災と補助犬 ～障害インクルーシブ防災から学ぶ～』開催のお知らせ」

障害者の死亡率の高さ（住民全体の2倍）から見ても、災害に強いまちづくりには、障害インクルーシブの視点が不可欠です。あらゆる人を包摂する防災対策について、東日本大震災から5年目だからこそ、改めて学びたいと思います。

日時：2016年5月20日（金）10：30～15：00

会場：衆議院第一議員会館 国際会議室

（最寄り駅：東京メトロ丸の内線・千代田線「国会議事堂前駅」

1番出口徒歩5分）

※駐車場がありません、公共交通機関をご利用下さい。

参加費：無料

※事前予約不要

※手話通訳・要約筆記あり

<第1部：10:30～12:00>

藤井克徳（日本障害フォーラム（JDF）幹事会議長）

「防災と補助犬 ～障害インクルーシブ防災から学ぶ～」

<第2部：13:30～15:00>

山口千津子（公益財団法人日本動物福祉協会

特別顧問・日本補助犬情報センター理事）

「補助犬同行避難について ～防災の観点から～」

問い合わせ：身体障害者補助犬を推進する議員の会

阿部知子事務所 栗原

TEL：03-3508-7303 FAX：03-3508-3303

▼「演劇結社ばっかりばっかり 第十九回公演チャリティ朗読会
『朗井（ろうどん）－赤だれ・黒だれ』開催のお知らせ」

日時：6月11日（土曜日） 14時（赤）と18時（黒）、
12日（日曜日） 13時（黒）と17時（赤）。

会場：スタジオ Happy Box 富士見台

〒176-0021 東京都練馬区貫井 4-2-2 パークサイドコーポ 1F

アクセス：西武池袋線富士見台駅北口より徒歩5分。

※希望により、富士見台駅からの誘導を行う。

料金：1500円（赤・黒通しセットは2500円）。

※純益は、熊本地震の被災者を支援する団体へ寄付を行う。

定員：各回30名（完全予約制）

出演：鈴木大輔、ぺんぺん、美月めぐみ

内容：超有名どころではないけれど、他ではなかなか聞けないような、
愉快的話、グッとくる話、美味しい話など盛り沢山！

赤だれ：犬丸りん作『魔女のカレーライス』『恋しき人の顔は見えねど』、
そのほか、民話調の作品、ファンタジー系の短編、
東海林さだおさんの丸かじりシリーズなど

黒だれ：犬丸りん作『トミーはイクラを愛している』
『愛の目覚め－和尚編－』、そのほか、素敵な猫のお話、南の島
での感動ストーリー、東海林さだおさんの丸かじりシリーズなど。

お問合せ・ご予約：

TEL 090-3818-6424（受付は10時から18時）

Eメール：otegami@bakkaribakkari.net

※予約の際、以下のことを伝える。

- ・名前（よみがなも）
- ・希望日時
- ・人数
- ・当日連絡の取れる携帯番号、

○視覚障害のかたは以下のことも伝える。

- ・富士見台駅改札からの誘導希望の有無

- ・当日配布のパンフレットのメディア
(点字、CD。ご希望は、6月7日火曜日までに連絡)

(26) 製品関連記事

▼「セラミック刃のピーラー／京セラ」

皮むき器「セラミックワイドピーラーCWP-17BK/PK」。野菜の皮むきやキャベツの千切りなど多用途に向くピーラー。刃の面積が広いという特徴はそのままに、持ち手部分をより軽く握りやすい形に改良した。さびないセラミック刃のため切れ味が長持ちする。本体色は訪日中国人の人気の高い黒とピンクをそろえた。

(日経MJ 4月29日12面より抜粋)

▼「食べこぼしにくいスプーン『UD ソフトスプーン』／レーベン販売」

食べこぼしや食べ残しをしにくいスプーン。秘密は、食べ物をのせる部分のくぼみが浅めで、なめらかな縁がついている。口を大きく開けなくてもスルッと口に入り、唇にぴったりフィットしてくれる。

持ち手は長めで握りやすいようにカーブがついている。また、すくう部分の中央でなく、端よりから持ち手が出ているためナイフのように力が入りやすく、カレーライスの大きめの野菜やオムライスなどの切り分けにも便利。

右手用と左手用があり、対面で食べさせる時も重宝する。

(朝日新聞 5月9日34面より抜粋)

(27) サービス関連記事

▼「スマホで高齢者『食』ケア／アイムービック」

システム開発のアイムービック瀬戸内海の離島で構成される愛媛県上島町で、スマートフォン(スマホ)を使って高齢者の健康を管理する取り組みを始めた。

利用する高齢者は毎日の食事をスマホで撮影して送信する。併せて1日1回電話をかけ、健康状態や詳しい食事内容などを担当者に伝える。写真や聞き取りから専門家が摂取した栄養素を分析。そのデータを基に、それぞれに最適な食事メニューを提案する。

4月中旬から実証実験を開始。上島町に住む65～80歳の高齢者30人を対象にまずは身長や体重などを測り、現在の健康状態を聞き取った。スマホは無料で貸し出した。高齢者でも簡単に使えるよう専用アプリを開発。ホーム画面の機能を写真の撮影と通話に限定した。

(日経MJ 5月13日7面より抜粋)

(28) 行政関連記事

▼ 『『ベビーカー利用に関するキャンペーンを実施

～よりベビーカーを利用しやすい環境作りに向けて～』

国土交通省にて設置した、「公共交通機関等におけるベビーカー利用に関する協議会」では、子育てしやすい環境づくりの一環として、公共交通機関等におけるベビーカー使用者のマナー向上と周囲の方の配慮・協力といったお互いの理解を深めるため、普及・啓発に向けたキャンペーンを昨年度に引き続き、実施いたします。

1. キャンペーン時期

平成28年5月1日～5月31日の1ヶ月間

※事業者によって、時期が多少異なる場合があります。

2. キャンペーン内容

- 駅や鉄道・バス車両、商業施設などにおいて、ポスターの掲示・チラシの配布やHP上での公開及びインターネットを活用した広報などを実施
- 各交通事業者等においても追加的な取組を実施予定

※掲示されるポスター等のデータやキャンペーンの詳細は、下記URLをご参照ください。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo09_hh_000097.html

※こちらのウェブサイトもご覧ください。

子育てにやさしい移動に関するウェブサイト（こそだてモビ）
<http://153.150.114.64/kosomobi/>

問い合わせ

国土交通省総合政策局安心生活政策課 小川、駒田、木口
TEL : 03-5253-8306 FAX : 03-5253-1552

(29) その他、各種関連記事

▼ 『私の目』受け入れて 補助犬法の周知足りず』

東京・銀座に、盲導犬を連れた客を国内で初めて受け入れたとされるレストランがある。それから半世紀余り。盲導犬の育成団体が使用者にアンケートしたところ、入店拒否などで九割が嫌な思いをしたことがあると回答した。この多くが受け入れを義務付けた法律の施行後といい、関係者は「もっと理解が広がってほしい」と話している。

アイメイト協会が三月に行ったアンケートでは、盲導犬を理由に嫌な思いをした使用者は 89%。その場所は飲食店が 79%(複数回答)に上った。

日本盲導犬協会も四月、受け入れ拒否の例をまとめた。協会に相談しない人もおり、実態はもっと多いとみている。協会が同法などを説明すると、七割からすぐに理解が得られ、拒否の背景には法の周知不足もある。

四月施行の障害者差別解消法に基づくガイドラインでも、不当な差別的取り扱いの例として、盲導犬などの同伴拒否を挙げている。

(東京新聞 5月8日1面より抜粋)

▼ 「スポーツで障害者理解」

8月のリオデジャネイロ五輪・パラリンピックを前に、国内トップ選手たちが全国の学校を訪問し、命の大切さや障害者への理解を子どもたちに呼び掛けている。2020年には56年ぶりの国内開催を控えており、子どもたちはアスリートとの授業を通じて、目標に向かって頑張ることや多様性を認め合うことの大切さを学んでいる。

(東京新聞 5月13日12面より抜粋)

(30) 新刊紹介

▼ 『オリンピック・パラリンピック大百科 4 オリンピックの発展と課題』

オリンピック・パラリンピックを総合的に学ぶ大百科。4は、競技技術の発展と、オリンピックをとりまくさまざまな課題について紹介。未来のオリンピックはどうあるべきかを考える。見返しに地図あり。

監修：日本オリンピック・アカデミー

発行：小峰書店

本体価格：3000円（税別）

ISBN：978-4-338-30004-9

▼ 『オリンピック・パラリンピック大百科 5

オリンピックのヒーロー・ヒロインたち』

オリンピック・パラリンピックを総合的に学ぶ大百科。5は、これまでのオリンピックで大活躍し、人々に感動を与えた日本と世界の選手たちを紹介。選手たちの秘められたエピソードも満載。見返しに地図あり。

監修：日本オリンピック・アカデミー

発行：小峰書店

本体価格：3000円（税別）

ISBN：978-4-338-30005-6

▼ 『オリンピック・パラリンピック大百科 6

パラリンピックと障がい者スポーツ』

オリンピック・パラリンピックを総合的に学ぶ大百科。6は、世界最高峰の障がい者スポーツ大会、パラリンピック大会のなりたちや、競技の説明、これからの課題を紹介する。見返しに地図あり。

監修：日本オリンピック・アカデミー

発行：小峰書店

本体価格：3000円（税別）

ISBN：978-4-338-30006-3

▼『オリンピック・パラリンピック大百科 7 オリンピック競技完全ガイド』

オリンピック・パラリンピックを総合的に学ぶ大百科。7は、オリンピック大会を楽しむために、夏季大会・冬季大会で行われるすべての競技をわかりやすく解説する。見返しに地図あり。

監修：日本オリンピック・アカデミー

発行：小峰書店

本体価格：3000円（税別）

ISBN：978-4-338-30007-0

▼『東日本大震災と特別支援教育 共生社会にむけた防災教育を』

東日本大震災が特別支援教育に問いかけたことを振り返り、障害のある子どもや保護者、特別支援教育に携わる教師の被災体験などをまとめ、インクルーシブな防災教育を提言する。

編著：田中真理（たなか・まり）川住隆一（かわすみ・りゅういち）

発行：慶應義塾大学出版会

本体価格：3000円（税別）

ISBN：978-4-7664-2323-5

▼『共にあることを目指す特別支援教育 関係論から発達障害を問い直す』

支援員などとして発達障害のある子どもたちと関わってきた著者が、子どもたちとの関係性から生まれる新たな発達障害の見方について事例を交えて示すとともに、“共にある”ことを目指す特別支援教育のあり方を提言する。

著：勝浦眞仁（かつうら・まひと）

発行：ナカニシヤ出版

本体価格：3700円（税別）

ISBN：978-4-7795-1050-2

（編集後記）

・ 共用品は、多くの人に知ってもらう事で存在する意味が増す。

それを最初に思ったのは、今から30年前、当時、朝日新聞の記者だった清水建宇さんに同社夕刊の「街」というコラムに目の不自由な子供たち向けに

「音と声のおもちゃカタログ」を紹介してもらい、全国から多くの問い合わせをいただいた時である。

- ・ 共用品推進機構が財団になる前の、市民団体「E & Cプロジェクト」の時代は、テレビ、ラジオ、新聞と、それはそれは数多くの媒体が、その活動と成果を取り上げてくださった。

それが、1999年に財団法人になったことで、仕事量と反比例し、報道の数は減った。財団法人なので「やって当たり前」といった理由も、取り上げられる数が減った理由の大きな一つとマスコミ関係者から聞いた。

- ・ 「分かってもらえる人に分かってもらえばいい！」などとへそを曲げることもできない。

では、どうするか？

- ・ そんな時、シルバー産業新聞の安田勝紀編集長が、同社の新聞に共用品のコラムを書きませんか？と提案してくださった。その後、日本工業出版の「福祉介護テクノプラス」、高齢者住宅新聞の「エルダリープレス」、時事通信社の「福祉厚生」、第2地方銀行協会の「リージョナルバンキング」、その他にも、日本通信販売協会、国税庁、郵政事業庁をはじめ数多くの媒体に、「自ら書く」ことをさせてもらっている。
- ・ また、今年度から2500名の文藝家で構成される公益社団法人日本文藝家協会の会報「文藝家協会ニュース」に、共用品に関する連載を書かせていただくことになった。
- ・ 冒頭の清水さんはその後、テレビ朝日のニュースステーションで、解説を長く担当され、今はなんと、スペインでお豆腐屋さんをされ、日本の味の文化を広めている。
- ・ 清水さんにコラムを書いていただいた「共用品の種」が30年でどんなになったか、近々報告できたらと思っている。

(星川安之)

共用品推進機構公式サイト <http://www.kyoyohin.org/>

共用品ニュース (ブログ) <http://www.kyoyohin-news.org/>